

令和 2 年 6 月 7 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K01625

研究課題名(和文) スポーツの技術指導時の効果的な言語表現構造の解明

研究課題名(英文) A Study of effective Language Expression Structure of Leaders in Teaching of Sports Technique

研究代表者

佐野 淳(sano, atsushi)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：50178802

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：スポーツにおいて、フォーム(スポーツの技術)を指導することは指導者の中核的活動である。スポーツにおける技術は学習者が運動(走る、宙返り、ボールを蹴る、プレーなど)ができるためには不可欠な要素である。指導者は学習者にその技術を指導するが、その際その技術の言い方が重要になる。本研究の目的は、指導の際の技術の効果的な言い方を検討することであった。その結果は、以下の特徴が見出された：学習者に欠点を指摘する表現、学習者の個性を伸ばす表現、イメージが湧きやすい表現、指導者自身がいいと思うリズムの表現、身体四肢の部分的動作に注目しての表現である。また、促発表現の多くは語用論的構造を持つことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、スポーツの技術指導場面において動きに関する内容を、学習者に対して指導者がどんな言い方やどんな表現の仕方をしたら技術習得に効果があるかに関して取り組まれた研究であり、学習者に対して指導対象となるコツと指導者の発することばや言語表現との深層構造に目を向けて、指導者のことばや表現の効果的な仕方を探ろうとしたものである。スポーツの指導はある意味で指導者と学習者との交信で成り立つものであり、本研究によって得られた指導者の技術指導上の言語表現の構造は学術的意義を持つとともに、実際の技術指導現場における言語使用およびその表現の仕方を効果的に行うための有益な知見を提供するところに意義がある。

研究成果の概要(英文)：In sports, teaching forms (movement, sports technique) is a core activity of a leader. Sports technique is an essential element for learners to exercise (running, somersaulting, kicking balls, playing, etc.). Leaders teach technique so that learners can exercise. It goes without saying that the way of saying the form (how to move) plays an important function. The purpose of this study was to examine effective expressions and how to use words about sports technique.

As a result, the following characteristics were found in the use of effective words: expressions that point out shortcomings to learners, expressions that stretch learners' individuality, expressions that are easy to imagine, expressions of rhythms that the leader himself think is good, and expressions that focus on the partial movement of the body limbs. It was also revealed that many of the leaders' prompt expressions have a pragmatic structure.

研究分野：体育学

キーワード：技術 発生運動学 促発言語 促発表現 語用論

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

スポーツの技術指導で重要なことは、指導者は、学習者の発話することばや表現から学習者自身が自分の動きをどのようにとらえているのかを理解した上で、学習者に対してやり方の感覚が発生することばを使用して指導していくこと、そして技術指導では指導者のことばの使用の仕方が学習者の技術発生を大きく影響する、ということ強く認識しておくことである。すなわち、指導者は技術指導において、ことばの使用の仕方が、学習者の技術発生に大きな力をもっていることを認識することが重要なのである。このことの認識とことばの使用に配慮がない技術指導や助言やアドバイスは、学習者の技術習得活動をかえって後退させることにもなりかねないことを知らなければならない。

技術指導に指導者のことばの使用の仕方が大きく影響するというこうした考え方は、スポーツ技術は学習者自身が自ら感じ取るコツについて語ることば、すなわち学習者の発する動感述語(述語形態の動感言語)としての創発言語の分析を通して明らかにされるという考え方をベースにしている。この考え方を【佐野】はすでに博士論文(2013)で示している(「コツの言語表現の構造に関する発生運動学的研究」)。その中で、創発言語は、学習者自身が責任を持ち、実際にそれによって動きを発生させたと学習者本人が思っていて、学習者自身によってコツとして語られることば、と定義された。その研究(博論)では、スポーツ技術は学習者の意識現象としてのコツを前提としたものであり、そこからこの創発言語として言語によって紡ぎだされる(構成される)ことによって現れる「形」(やり方の図式)であるという基本認識が示された。このような学習者自身が語るコツの言語表現(創発言語)の言語学的構造を解明しようとした試みは、これまで見当たらなかった斬新な発想をもっていた。

一方、現場で指導者が用いる指導時のことばや表現(促発言語)が、学習者に適切な運動体験をさせるために用いられなければならないが、しかしこれまで、スポーツの技術指導において指導者の発するこうしたことばや表現を動感言語ないし促発言語(佐野, 2013)として取り上げ、その動感内容に踏み込み、そこで用いられることばや言語表現の言語学的分析を試み、その構造を明らかにしようとする試みはなかった。ここで言う促発言語とは、指導場面で指導者が発する、学習者が“できる”ようになるための可能性に向けられたことばや表現で、学習者の新たな運動発生を促す指導者の発することばや表現と定義されるものである(佐野, 2013)。

確かに、このような促発言語の技術指導においても重要性は、すでにマイネル(1960;運動記述)も金子(1974;運動技術表記)も、さらに生田(1987;わざ言語)も指摘していることではある。例えば、「押す」「引く」「胸を含む」「つっかける」などのことばないし表現は、まずは動きを発生させることに寄与するという意味では無くてはならないものであり、さらに言えば、「腰を曲げる」と「腰をとる」、「鉄棒をはじく」と「鉄棒を離す」といった表現の差は、運動実施に大きな違いを生じさせることは指摘されてはいる。しかし、指導者の技術指導上の語られる言葉や表現をこのように列挙することはあっても、それらの言語表記の構造や発言内容の意味内容を学問的に明らかにしようという試みはこれまで見当たらない。つまり、そうしたところでは、ことばや表現が学習者の運動発生に責任をもつ指導者の「促発言語」であるとして明確な位置づけはされておらず、また、その促発言語の表現構造の解明がなされているわけではない。

このようなことから、本研究の研究代表者である佐野は、この促発言語の表現の構造解明は、技術指導時における学習者の望ましい技術発生を促すことに寄与するのではないかと考えるようになった。

2. 研究の目的

そこで、本研究ではこのような認識に基づいて、技術指導の際の技術(やり方)に関わる指導者の効果的な言語使用の仕方の構造解明、すなわち、指導者は学習者に対して、どのようなことを配慮して技術(やり方)をどうことばで言い表していくべきかという、技術(やり方)に関する効果的な指導者の言語表現の仕方やことばの使い方の構造(促発言語の表現構造)を、発生運動学的立場に立って明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、指導者が技術指導する際の促発言語として使用する、技術(やり方)に関わる特殊なことばや言い方(わざ言語、運動の技術言語)の表現構造を解明しようとする研究である。本研究ではこの促発言語の表現構造の解明を、言語学的分析手法も一部取り入れて、発生運動学的立場に立って解明するものである。

本研究では、研究期間内に、以下のような方法で、本研究課題に取り組んだ。

本研究の主たる方法は、全期間を通じて、スポーツの技術書および言語学の関連文献の調査研究によって技術指導時の言語表現を理論的に分析するという方法と、スポーツの技術指導書に記載されている運動実施上の注意点の内容とその記述や表現の仕方の調査および分析、また、運動の専門家(コーチなど)との意見交換によって、実際の促発指導時の表現の仕方に関して収集した情報を分析するという方法である。

4. 研究成果

本研究におけるまずもって核となっている認識は、スポーツにおける技術指導は、実際のところ、指導者の学習者への複雑な働きかけ行為であるとともに、その際の指導者の技術に関わることば(促発言語)の使用の仕方がきわめて大きな影響力をもつ、という認識である。そして、そうした認識から、指導者の学習者に対する技術発生に関わる促発言語の使用の仕方や技術(やり方)に関わる特殊なことば(わざ言語、運動の技術言語)の表現構造を解明しようとした。

言語学および運動の技術指導における技術の考え方や促発言語による表現の仕方に関する文献の収集、および、その内容の分析とまとめ、整理、他大学のスポーツのコーチなどとの意見交換による技術指導上の情報収集を行った。研究の主な成果は以下の通りである。

(1)技術指導時における言語表現あるいは助言の仕方いくつかのパターン、あるいは、特徴があることがわかった。

- ・学習者に対して欠点を指摘して修正を図っていく場合言語表現(例えば、「そのタイミングは良くない。もう少し遅くした方がいい」)
- ・技術的側面から学習者の個性を伸ばしていくときのアドバイスの内容とその言語表現(例えば、「君の場合は、もう少し力を入れた方がいい」)
- ・学習者が自分の動きがよく分からなくて、自分の動くイメージがなかなか湧かないときの学習者への助言の言い方(例えば、「こんな感じだったら分かるかな?」)
- ・指導者が良いと感じている動きのリズムを学習者にと絶えたいような場合の言い方(例えば、「そこは、こんな感じになると良い」)
- ・動き全体の修正を図りたいときの言い方(例えば、あまり細かなことを考えない方がいい)

- ・身体四肢の部分的動作に目を向けて修正しようとするときの言語表現の仕方（例えば、「宙返りでひねるときは右腕はこんな感じでもってくること」）

(2)技術指導時の指導者の促発表現は、多分に語用論的構造をもつ。

学習者に技術（動きかた）を教える場合、多くは「この腕をこう上げるように！」とか「もう少し顎を上げるように！」、また「腕振りはこんな感じで！」などと言葉で言い表して助言する者であるが、その場合、指導者が発するコツに関わるそうしたことばや表現は、単なる身体四肢の物体の空間的、時間的な客観状態を指摘しているのではなく、指導者が学習者の動きかたを見て分析してみて、指導者なりに解釈して出てきた動作内容であり、それは学習者が“できる”ようになるための可能性に向けられたことばや表現なのである。つまり、そのことばの背後に指導者なりの技術の考え方も合わせているのである。言語学的に言うならば、多分に語用論的構造をもった表現になっていることが明らかになった。

以上のように、本研究では、上記のように、指導者の学習者に対する促発言語の言語表現上のいくつかの特徴と、促発表現は言語学的にいつて語用論的構造のあることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 日本スポーツ運動学会編（執筆者 佐野淳他） | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 大修館書店 | 5. 総ページ数 165 |
| 3. 書名 コツとカンの運動学 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号） | 所属研究機関・部局・職 （機関番号） | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|